

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北(1F)		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	令和4年3月4日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvosyoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>* コロナ禍でも毎月の屋内イベントを工夫して、入居者様もスタッフも楽しめる取組みを実施している。</li> <li>* 職員のスキルを活用したレク活動を各々が実施できている。 レク用書籍を参考に「はり絵・エコクラフト・折り紙・ハンドベル演奏・手作りおやつ」等を継続。</li> <li>* 利用者の身体状況に応じた福祉用具を随時利用する為、福祉事業所との連携がある。 (福祉用具等は無償で、利用者様に提供しております。)</li> <li>* 眠りSCANの利用にて、安眠を妨げない排泄誘導等が行えている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>札幌市郊外の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。JR拓北駅から徒歩7分ほどで、周辺には銀行や郵便局、小学校などがあり住環境に優れている。建物は新しく清潔で、共用空間が広く、車いすの利用者も使いやすいトイレ、リフト付きの浴槽など設備が整い、空調や除菌装置なども設置されている。感染症流行により外出が難しい中、室内での楽しみごとに力を入れ、装飾品づくり、ゲームなどを行い、利用者が表情豊かに過ごしている。また、玄関前での外気浴や庭の畑仕事も行っている。職員意見の反映の面では、月1回の会議の前に職員にレジュメを渡して活発な意見交換ができるようにしている。職員同士のコミュニケーションも良好で、前回の外部評価で課題となった事業所独自の理念についても意見を出し合い、新たな理念をつくっている。ケアマネジメントの面では、個々のフェイスシートに生活歴や趣味・嗜好を載せ、介護計画更新時に詳細な課題分析シートを作成して利用者の状態の変化を把握している。また、計画目標のモニタリングを毎月行い、計画の見直しに活かしている。入浴支援の面では、一人ひとりが入浴することに浴槽の清掃を行うなど衛生面に配慮し、気持ちよく入浴できるようにしている。快適な環境ときめ細かい支援のもと、楽しく安心して過ごすことのできるグループホームである。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識して、利用者様の思いに添えるようにコミュニケーションを大切に関係性を築き上げに努めている。	昨年、事業所独自の理念を作り、その中に「人と地域に寄り添い～」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとしている。理念をスタッフルームに掲示し、毎月のフロア会議で理念の内容を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、制限が有り交流が困難ですが、町内会の役員会に同席を許されGH拓北のPRを行えた。	感染症流行前は同一法人が運営する近くの福祉施設との合同行事に参加し、地域の方とも交流していた。最近、町内会の役員会で事業所を紹介する機会を得た。感染症収束後は新たな企画で地域交流を図りたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「情報発信の場」としての理念を掲げているが、コロナ禍の状況で可能な取組を企画して実践していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様の出席は望めないが、日頃のご意見やご要望等を頂き、施設で出来る事を話し合い実行している。	現在は文書による会議を2か月ごとに開催しているが、運営報告が中心となっている。現在は職員以外の参加が難しい状況である。議事録を作成しメンバーに送付している。	運営報告以外に計画的にテーマを設定してメンバーから事前に意見収集を行い、意見への対応を検討し議事録等で答えることを期待したい。実際の会議が開催される際は、家族や町内会関係者の出席が得られるよう準備を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況や介護保険に関することを確認して、関係性を築き活動している。	市役所には感染症対応について指導を受けており、地域包括支援センターには利用者の困難事例への対応などを相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の内部研修等で定期的に身体拘束の勉強と理解を深めている。拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとの委員会を開催するとともに、年2回、勉強会を開催し、禁止事項の確認を行っている。玄関は安全のため日中も施錠しているが、利用者の外出意向を察知した場合は同行し、閉塞感を与えないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の内部研修等で定期的に虐待についての勉強と理解を深めている。虐待の無いケアに取り組んでいる。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を定期的に行い、理解を深めている。普段から活用できるように、スタッフ間での声掛けも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては丁寧な説明を心掛け、ご質問の内容を確認。ご理解・納得のうえ署名頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との会話の機会に、ご意見やご要望を頂いている。内容を確認して、改めてご連絡を行い対応方法等を説明している。	家族からは電話やメールで多くの意見を得ている。得られた意見や要望を管理日誌や掲示板で共有しており、さらに情報共有を徹底する意向である。毎月ユニットごとに写真入りのお便りを作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍の為、毎月の全体会議はユニット毎に個別に開催。少人数で間隔空け・短時間にて職員負担の軽減。問題提起の案件は迅速な対応を行っている。	月1回フロア会議を開催している。職員に事前にレジメを渡し、意見を収集している。管理者は職員と必要に応じて面談の場を設けている。身体拘束や感染症の委員会、行事、環境整備など、職員が役割を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ間の情報共有や意見交換で、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフの育成を考慮してスキルアップ研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、直接交流は困難であるが、遠方の事業所とはリモート研修等を活用して相互交流は出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談では、本人の興味の対象について耳を傾け、本人の情報を多く得られるように内容を確認して理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談では、ご家族様の興味の対象について耳を傾け、ご家族様の情報を多く得られるように内容を確認して理解できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている事は何かを見極め、ご本人とご家族様の思いに添った暮らしが出来る様にサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る事/出来ている事」等を見極めたり、共同での活動スタッフの仲介を交えて、支え合う関係性を築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の対策期間でもご家族様には、GHIに来館し易い雰囲気づくりを行えている。可能な時期には面会や外出をして頂き、共に支え合える関係性を築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の対策期間でもご親戚には、GHIに来館し易い雰囲気づくりを行えている。可能な時期には面会や外出をして頂き、共に支え合える関係性を築けている。	親戚との手紙のやり取りや知人との電話を楽しむ利用者もいて、利用者がきちんと会話できる時間帯に電話してもらうよう知人に依頼することもある。感染症流行前は、カラオケや喫茶店、関連施設の出張店舗に出かけており、今後の再開を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の交流の仲介・見守りにて、相性等を考慮して関係性の構築ができるように支援している。		



グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者はまだ少数ですが、ご家族からの連絡を頂いた際には、丁寧に対応。必要時は助言等をさせて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との関わりの中で、訴え等があれば傾聴をし、スタッフ間で情報共有を行い対策を立て対応しています。	3分の1ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も問いかけの反応などから把握している。フェイスシートに生活歴や趣味・嗜好を載せ、定期的に更新している。計画更新時に詳細な課題分析シートを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されて最初の時期は、環境/関わる人物の変更等でご本人に一番ストレスに係る時期です。ご本人の生い立ちや、昔の暮らしぶり等の情報共有。新生活開始の利用者様の不安を軽減出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のご本人の体調等を把握。日常生活動作を維持できるようレクや行事への取組を工夫して提供している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様との関わりや毎月のカンファレンスにより、支援内容や過不足を検討しています。モニタリング等家族から聴取した情報も職員へ周知し、適切な支援を行えています。	介護計画を3~6か月毎に更新している。毎月モニタリングを行い、計画目標変更の必要性の有無を確認している。日々の支援記録の上部に計画目標をあらかじめ印刷し、目標を意識しているが実施状況等の記録は十分に行えていない。	支援記録上部の計画目標欄に、実施状況や特記事項を記載して、モニタリングや計画更新に活用することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様との関わりで、気づきや訴え等を情報共有。問題解決や支援内容を確認しています。家族から聴取した情報も職員へ周知し、適切な支援を行えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の出来る事を継続・応用した取組を増やす。各職員のスキルUPもアクティビティで図る。少人数の寂しさがある時には、2Fとの交流を行って日常生活と異なる変化ある生活リズムを演出している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でも、季節毎にイベントを企画。スタッフも楽しめるように取組んでいる。状況により、フロア合同でのイベントを企画・実行しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を反映しかかりつけ医を選定。訪問看護師の支援を受けて、主治医や薬剤師と連絡調整等連携する事が出来ている。	協力医療機関(内科)による月1回の往診があり、必要に応じて歯科、皮膚科の往診もある。その他の通院は家族または事業所で支援している。受診内容は、医療連携訪問記録や医師からの指導書などで確認できる。	

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の朝のバイタルや変化を、訪問看護師に伝え専門職の見地に対応して頂いている。介護職で行える処置を医師の指示を受け実施。相互連携にて早期に利用者対応を行えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護師の支援を受けて、早急に入院時情報提供を作成し病院へ提出すると共に退院が可能な時期には、本人面談及び担当看護師からの聴取を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様の介護度増加時に、ご家族様の意向を確認。グループホームでの生活支援の時期を慎重に協議。柔軟に対応させて頂いております。	利用開始時に「重度化に関する指針」を説明し、同意書に署名捺印を得ている。現在、事業所での看取りは想定しておらず、重度化した場合は医師、家族と相談の上、医療機関等にスムーズに移れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変に備え、常日頃から職員間の役割分担や手順を確認している。落ち着いて行えるよう定期的にシミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜勤時の避難方法を近隣に住む住民の皆様から協力を得られる体制作り。消防訓練・避難訓練を近隣住人にも参加して頂ける様に企画・実行に努めます。	年2回、消防設備会社の指導のもと、近くの関連施設と合同で避難訓練を実施している。災害時に必要な備蓄品も用意している。一方、職員の救急救命訓練や地震時の対応の確認は十分といえない。	感染症流行のため救急救命訓練の受講が難しい場合は、ビデオやリモートを活用して救急救命について学ぶ機会を設けることを期待したい。また、地震対応マニュアルを用意し、職員間で定期的に確認することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様との親交も大切ですが、人格の相性等に配慮しております。呼名も本人の意向を尊重、名字や下の名前呼び、あだ名等は禁止している。	言葉遣いや接遇等のリモート研修に参加し日々の支援に活かしている。個人情報に関わる書類は鍵の掛かる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の決定権を尊重しており、「どっちがいいですか?」「〇〇はいかがでしょうか。」等の声掛けをスタッフがさせて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	スタッフは必要最小人数での支援をさせて頂いている。ご本人のリズムで活動出来るよう、意向に添えるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様には、季節にあった衣服を身に付けて頂けるように、職員が選択を促す声掛けを行っております。清潔が保てるよう配慮しております。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的にご利用者とスタッフが手作りおやつを一緒に楽しめている。片付けや準備も利用者が自発的に出来るようになってきている。	系列事業所より副食の提供を受けている。行事の時はメニュー変更や特別メニューとし利用者の楽しみとなっている。職員も一緒に同じメニューで食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事提供時は見守り、食事・水分量の把握。個々の食習慣に対応して支援。水分量不足する利用者様には、脱水症状にならないよう配慮。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご利用者へは自立支援の原則から、出来る事を継続して頂いている。食後の口腔ケアを促し、ご自身で困難な利用者は義歯管理を代行している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の尊厳に配慮した、支援を心掛けている。定期的なトイレ誘導・尿量にあった適切なパットを使用。下着の上げ下げ等出来る行為を継続して頂き、不足部分を支援。	全員の排泄表を記録し一日の飲水量と排泄量のバランスに注意している。トイレでの排泄を大切にしており、排泄パターンにそって声かけ誘導している。夜間は睡眠状況を観察しながらトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の水分・食物繊維の摂取を促すと共に腸の動きを活発にする為の運動に参加してもらえよう支援している。排便コントロールを医療機関と連携して指示により、薬剤の提供を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前に、バイタル測定・本人の意向を確認して入浴を楽しんで頂いている。入浴日変更等を柔軟に行い皮膚トラブルを予防。湯温や湯船に入っている時間等、利用者様毎に配慮している。	日曜日以外は毎日入浴でき、1人あたり週2～3回は入浴している。入浴を嫌がる場合は時間変更や声かけの工夫をし、足浴や清拭などで清潔を維持している。1人ひとり湯の入れ替えと消毒で清潔管理を徹底している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の当日の体調に配慮して、活動と休息のバランスをとり、メリハリある生活を送れる様に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬剤準備を複数の職員でダブルチェック。医師・看護師との連携で必要な薬を適切に内服できるよう見守り、服薬介助を行っております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	取り組成果として、形で残る作品作りの効果・効用をユニット間の職員で情報共有。イベント時に展示出来て、利用者様の創作意欲が向上。笑顔が輝いている。			



グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策で外出レクは屋内に転換実施。近隣住人との接触が出来ない。室内でのおやつのパイキング形式買い物等、屋内で可能な企画を職員の創意工夫で実施しています。	感染症流行前は、毎日の散歩や近所の河川敷での花見、百合が原公園などに出かけていた。感染状況をみながら再開を検討していく意向である。庭に花壇や畑があり、外気浴はいつでも出来るように整備されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人とご家族様の意向に沿い、コロナ禍以前は現金所持・支払の見守りを行っていました。現在は預り金での買物代行で対応。ご理解を頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会が困難な為、LINE電話による交流が増加。ご自身で電話をかける事は難しいので、ご家族様から連絡をして頂き居室にて会話を楽しんで頂いております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい空間作りの為、毎月の展示物や工作に着目計画し、創作活動で完成した作品を掲示している。居室の調光照明で適切な明るさに設定しています。	広々とした居間と食堂が中央にあり、両側に居室が配置され、居室から出るとすぐゆったりと過ごせるようになっている。光触媒の空気清浄機や加湿器があり清潔で快適な環境を維持している。各ユニットに2か所のトイレがあり、大きな表示とドアの色を工夫しわかりやすくなっている。壁には季節感のある手作りの作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブル席とソファ席、それぞれお好みの場所にて過ごされています。広い空間の為、定期的に家具の配置換えで気分転換出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の意向に配慮して、馴染みのある調度品(テーブル/タンス等)を持ち込み頂いている。ご自分の落ち着ける空間にする為、写真や人形等を飾り穏やかに過ごして頂いております。	介護用ベッドや床と天井に突っ張るタイプの手すり等の福祉用具が利用者の状況に合わせて無償で提供されている。テーブルや椅子など、馴染みのある家具を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁には手すりを設置、転倒予防して移動する事が可能。トイレや浴室は色分け、視覚で認識出来るよう工夫。居室入り口には、ご利用者様の固有の飾りを目印を付けて迷う回数が減少出来る工夫をしています。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社 フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北(2F)		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目1-8		
自己評価作成日	令和4年3月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0190201574-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>* コロナ禍でも毎月屋内イベントを企画/実施して、利用者様とスタッフがストレス解消に努めている。</p> <p>* 栄養バランスを考慮した食事提供の為、調理を専門業者に委託。そのかわりに入居者様と(週/3回)手作りおやつをスタッフと作り美味しい物を食べて笑顔の時間を皆様と共有出来ています。</p> <p>* 眠りSCAN(パラマウンド社製)を居室に設置。入居者様の睡眠状況の記録と状態把握。適切なタイミングで交代やトイレ誘導が実現できている。ご家族様もデータを示して情報を受け状況把握ができています。</p> <p>* 法人内の福祉用具を無償で入居者様に提供行っている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有は行えている。しかしながら、コロナ禍の影響で地域に発信できる機会が少ないのが残念。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域開催のイベントや事業所主催のイベントで地域交流を行えて無い。(コロナ禍で中止しています。)挨拶等は行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域開催のイベントや事業所主催のイベントで地域交流を行えて無い。(コロナ禍で中止しています。)挨拶等は行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をスタッフのみで定期的開催。入居者のご家族様から、普段頂くご意見やご要望をサービス向上に反映している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所及び本庁舎の関連部署や地域包括支援センターの担当者様に相談や助言を頂き業務を行えています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内及び外部研修に参加して知識や技能向上に努めています。定期的に勉強して、拘束にならないケアを実践。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会及び外部研修に参加してスタッフ間での情報共有。お互いのスキルアップを実践。虐待防止、丁寧な介助を心掛けている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内及び外部研修に参加して知識や技能向上に努めています。定期的に勉強して、権利の侵害にならないケアを実践。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時に、文章の理解向上の為に補足説明等を丁寧に行っています。不明な点を傾聴して確認、調査して回答。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者のご家族様から、普段頂くご意見やご要望をサービス向上に反映している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善の意見や外部研修への参加要望に丁寧に対応して頂いている。意見等を言いやすい環境作りを頂いています。(コロナ禍で中止しています。)			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議での業務改善やサービス内容の見直しについて評価や対策に早期対応して頂いている。現状の把握と将来の見込みの説明も頂いている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の自己研鑽への声掛けや研修機会に向けた案内を頂いている。メンタル面にも配慮して頂いている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の系列同業者や異業者間で研修や勉強会を開催。(コロナ禍の為にリモートで交流)相互理解やチームケア促進に役立てられている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク面談時に、ご本人とご家族の希望と課題を傾聴。可能な限りご本人には実際に来所し職員・施設環境の雰囲気を実感して頂いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初にご本人とご家族様に実際に施設訪問をして頂いて入居希望を確認。グループホームは、家族的な空気や時間の流れの生活空間である事を理解頂き不足部分を支援。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初にご本人とご家族様の望む生活を把握。将来像を確認。障害されている原因を見極めて必要な社会資源の提案とサービス考案して選択頂く。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の自立した独自のリズムで生活を継続できるように不足部分の支援をさせて頂いています。身体機能維持の為にできることを継続して頂いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様を支援する為に、生活歴を情報共有化してチームケアにてご本人の望む生活を支援。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームにも気軽に訪問して頂き親交を深めて頂ける様に努めています。(コロナ禍でLINE電話による交流を提案、実施中。)			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームは、家族的な空気や時間の流れの生活空間である事を認識して頂く努力を継続。入居者様の生活リズムで暮らして頂く。食事や体操・アクティビティ・外出レクでの親交を深めて頂いている。			



グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族様からの問合せや相談に対応しております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテーク時に確認。ご本人の状態やご家族様の意向を把握。毎月のカンファレンスでスタッフ間の情報共有。サービス向上に反映。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様毎に、生活スタイルは異なる為、カンファレンスで情報共有化を行っている。状態変化に柔軟に対応、サービス内容を工夫。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様毎に、生活スタイルは異なる為、カンファレンスで情報共有化を行っている。状態変化に柔軟に対応、サービス内容を工夫。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化に対応したサービス内容の変更を考案でご本人とご家族様に了承を頂き支援。QOLの維持。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態観察、申し送りや毎月のカンファレンスにて情報共有化、チームケアで対応させて頂いています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本様の近況はグループホーム発行の拓北通信で毎月ご家族様に報告。ご家族様は都度、電話にて状況を報告。(コロナ禍で、面会中止の為。)			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出レクを屋内イベントに変更。企画・実行。入居者様同士で親交を深められています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームで提携している内科医や歯科医・皮膚科や薬剤師のご協力が入居者様の特変時に早期対応ができています。			

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師は、入居者様の状態観察等をして頂いている。細部に渡り献身的に対応して頂いている。メンタルケアもして下さっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の急変時のマニュアル整備。実働を通してスタッフ間の冷静な対応が出来ている。振り返りを行い対応力が向上。入退院時の医療機関への訪問・情報共有。(コロナ禍で電話・FAX対応しています。)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制は今後の課題として、契約時に説明させて頂いています。重度化については、ご家族様と都度の打ち合わせ方針の確認。支援を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や外部研修、各自の勉強を段階的に行っている。急変時に冷静に対応できるようスキルアップを図る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが、町内会を含む体制作り等は作成中です。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念:人と心を大切にする。理念を基に日々の入居者様毎の生活リズムで不足部分を支援させて頂いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何でも表現できる雰囲気作りに職員一同が努めており可能な事は実現できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者様毎の生活リズムに対応して意向を尊重した支援をさせて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月に訪問理美容の業者様の協力で身だしなみやおしゃれを支援できています。衣服の選択をご本人にして頂いている。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の片付け/テーブル拭き等を体調の良い入居者様が申し出て手伝って下さっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食栄養バランスの取れた食事を専門業者さんの協力で提供できている。水分摂取量の個別対応。不足時は増回を実施。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣となり拒否なく行えている。出来ることを継続して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの定時誘導や見守り・不足部分の支援は、ご本人の意向を尊重して支援できています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関や訪問看護STと連携して排便コントロール等を行えています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴準備から入居者様とスタッフが協力して行えています。楽しい入浴の印象が作り。入浴拒否時は、時間や翌日に変更等で対応できています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りSCANを活用し入眠状況を確認して体交やトイレ誘導が適切に実施できている。ご家族様もデータ確認。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師や訪問看護師の支援を受けて入居者様毎に適切な内服ができています。薬の飲み込みを確認。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎の役割分担が自然とできておりお互いを気遣う関係を築けています。アクティビティへの参加は自由で強制なし。		

グループホームウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為戸外へのお出かけ支援はできていません。毎月のイベント/毎日のレクリエーションを計画・実行・振り返りを行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為戸外へのお出かけ支援はできていません。毎月のイベント/毎日のレクリエーションを計画・実行・振り返りを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人またはご家族様からの申し出によりLINE電話を掛けたり、取次を行っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのスペースに余裕があり、定期的にソファの配置換え。入居者様毎に、お気に入りの場所できつろいで頂いております。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とフロア入居者様毎に、お気に入りの場所できつろいで頂いております。(共有スペースをご自分の生活リズムで往復され穏やかに過ごして頂いている。)			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室とフロア入居者様毎に、お気に入りの場所できつろいで頂いております。(共有スペースをご自分の生活リズムで往復され穏やかに過ごして頂いている。)			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住環境は、照明・トイレ・浴室等の表示や色分けで視覚にて判断しやすい工夫をしています。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホームウェルスタイル拓北

作成日：令和 4年 4月 8日

市町村受理日：令和 4年 4月 11日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	支援記録上部の計画目標欄に、実施状況や特記事項を記載して、モニタリングや計画更新に活用することを期待したい。	個別支援記録用紙を改良して、介護保険更新時等の計画作成に有効活用する。	姉妹施設であるGH屯田とも情報共有を行う。支援記録用紙を改良して、介護保険更新時等の個人別計画作成に有効活用する。	3か月
2	4	運営推進会議の運営報告以外に計画的に、テーマを設定。メンバーから事前に意見収集を行う。意見への対応を検討して、議事録等で答える事を期待したい。実際の会議が開催される際は、ご家族や町内会関係者の出席が得られるよう準備を期待したい。	GH拓北からご家族様や地域住民に役立つ介護情報等を発信。地域社会に貢献する。	GH拓北からご家族様や地域住民に運営報告以外の取組を伝える。毎回テーマを設定して、スタッフ全員参加の介護情報等を発信。ご家族様や地域社会に貢献する。	6か月
3	35	感染症流行の為、救命救急訓練の受講が難しい場合は、ビデオやリモートを活用して、救命救急について学ぶ機会を設けることを期待したい。また、地震対応マニュアルを用意して職員間で定期的に確認する事を期待したい。	普通救命講習 I を受講して、修了書の交付を受ける。入居者様の特変時の対応に知識や技能を役立てる。	札幌市防災協会主催の普通救命講習 I (180分間)を受講して、修了書の交付を受ける。入居者様の特変時の対応に知識や技能を役立てる。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。